

大豆栽培こよみ

時月	6			7			8			9			10			11			
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
主な作業	適地の選定	土づくり	種子消毒 播種前除草	施肥 (耕起・整地)	耕起・播種	除草剤散布	中耕・培土	追肥	害虫防除	害虫防除	病害虫防除	害虫防除	病害虫防除	病害虫防除	青立株採取	成熟期	収穫	乾燥	調製
作業内容	水系別に集団化を図る。 排水溝設置 周囲にやや深い排水溝を設け落水口へつなぐ。 地力増強 麦ワラすき込み。アツミン、土力の素 pHの矯正 目標pH6.0~6.5 炭酸苦土石灰、ミネラルG			種子消毒(ハト害・紫斑病) 種子消毒基準参照 排水溝設置 周囲にやや深い排水溝を設け落水口へつなぐ。 地力増強 麦ワラすき込み。アツミン、土力の素 pHの矯正 目標pH6.0~6.5 炭酸苦土石灰、ミネラルG			雑草防除基準参照 播種時期と栽植密度参照 施肥基準参照 PK化成40号の散布を行う。 8月10日頃までに必ず1回は実施する(倒伏防止と雑草対策)。 アサガオ・ホオズキを手作業で取り除く。 ガイドベイトAを3kg/10a株元散布を行う。 ネキリムシ 生育初期までに大豆地際部の土壌表面に			本葉2枚から4枚頃までに行う。 生育不良の場合は開花期までにNK化成2号を10kg/10a施用する。			ハスモンヨトウの多発年は、液剤による徹底防除を行う。 紫斑病 カメムシ ハスモンヨトウ の薬剤防除(三種混合) 白変葉が目立つてきたら薬剤による予防防除を行う。 早めに手取りで除去する。 ハスモンヨトウのふ化幼虫が群生している白変葉を			刈取適期は成熟期の7日後から(子実水分16%以下) 乾燥した時期 成熟期は大部分が落葉し莢を振ると、音をたてる程度に 青立ち大豆や雑草は刈取前に抜き取る。			



播種・出芽期



中耕・培土



品種特性表 (7月10日播)

品種名	開花期	成熟期	耐倒伏性	10a当り子実重	百粒重
ちくしB5号	8月20日	11月2日	やや強	366kg	32.4g

土づくり

施用	資材・方法	施用量(kg/10a)	備考
有機物の施用	麦ワラすき込み	全量	播種作業に支障がないようワラは短く切る
	アツミン	40	保肥力を高める腐植酸が主成分
土壌改良材の施用	炭酸苦土石灰	160~200	酸性障害対策、大豆に必要なカルシウムを含む
	消石灰	160~200	酸性障害対策、カルシウムのほかケイ酸も含む
	ミネラルG	160~200	酸性障害対策、カルシウムのほかケイ酸も含む
	土力の素	45	保肥力を高める腐植酸のほかケイ酸加里を含む

<有機物の施用> 収量向上には地力の増強が必要です。
<土壌改良材の施用> 大豆は酸性に弱い作物です。大豆栽培に適した土壌条件: pH6.0~6.5

種子消毒基準

薬剤名	処理方法	処理量	備考
キヒゲンR-2フロアブル	塗沫	種子10kgに200ml	ハト害、紫斑病
クルーザーMAXX	塗沫	種子10kgに80ml	ハト害、紫斑病 ネキリムシ、アブラムシ

施肥基準

大豆作付条件	肥料名	基肥	成分量			選播はちくこのめくみ444を使用する
			窒素	りん酸	カリ	
一般	PK化成40号	30	2.1	6.0	6.0	使用する
遅播等	ちくこのめくみ444	15	2.1	2.1	2.1	

※大豆種子は肥料焼けし易いので、播種と施肥位置が重ならないように注意します。
※生育不良の場合は開花期までにNK化成2号を10kg/10a施用します。

播種時期と栽植密度

品種名	ちくしB5号 (1株当り2粒)					
播種期	7月1日~20日(適期播)			7月21日~(遅播)		
条間(cm)	65					
株間(cm)	30~20			15~10		
10a当り播種量(kg)	3~5			6~9		

※適期の範囲内でなるべく早く播種します。
※異品種混入防止の為、ほ場には一品種の作付けとします。

令和5年大豆栽培管理記入欄

★「作付品種名」「作付面積」「主な作業月日」を記入して下さい。

	6月			7月			8月			9月			10月			11月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
ちくしB5号	土づくり			種子消毒			中耕・培土			病害虫防除			収穫					
	/ ~ 日			/ ~ 日			/ ~ 日			/ ~ 日			/ ~ 日					
	/ ~ 日			/ ~ 日			/ ~ 日			/ ~ 日			/ ~ 日					
	/ ~ 日			/ ~ 日			/ ~ 日			/ ~ 日			/ ~ 日					
a	播種			雑草防除			病害虫防除			/ ~ 日			/ ~ 日					
	/ ~ 日			/ ~ 日			/ ~ 日			/ ~ 日			/ ~ 日					

*安定多収は土づくりと適期防除から *農薬購入の際は、印鑑が必要です。 *農薬は保管庫等でしっかり管理しましょう!
*一工程播種で適期播種を目指しましょう。 *農薬のラベルをしっかりと確認して散布しましょう!

※周辺に作物に飛散しないように注意 ※中耕、培土による耕種防除も併せて行います。

※大豆を栽培するほ場の周辺に作付けされる農作物の状況を確認し、防除日程等の連絡を徹底します。
※ブームスプレーヤー(兼用管理機)や動力噴霧機で防除を行う場合は、ドリフト低減ノズルを使用するなどして、農薬の飛散を未然に防ぎます。